

「プロフィール」にまつわるお話

世界的名テノールの N. マルティヌッチと共演したコンサート（2004 年、東京芸術劇場）では、ニューヨークの音楽記者が“米澤の歌った「清きアイダ」の最後の高音は、メトロポリタン歌劇場でも聴いたことのない素晴らしいものであった”と世界中に発信してくださいました。

2005 年には、オペラ「トゥーランドット」のカラフ王子役を、イタリア（G. パスティネ 総監督・演出 / G. プロイエッティ 指揮）と、日本（畑中良輔 総監督 / 若杉弘 指揮 / 栗山昌良 演出、ベリオ版日本初演）で演じ歌い、大絶賛されました。

2012 年には、皇后陛下（現・上皇后）のご臨席を賜り、東京サントリーホールで開催されたモーツァルト「レクイエム」のソリストを務め大成功をおさめることができ、演奏会後には、貴賓室にお招き頂き、上皇后の方から「お医者様でいらっしゃるのですね」とお言葉をおかけくださり、音楽ばかりでなく、私の医学研究のお話も申し上げ、この上ない光栄な時を持たせて頂くことが出来ました。

1993 年に自費出版した CD「米澤傑 テノールコンサート」のジャケットに、高名な指揮者の井上道義先生の「(1) この国に生まれなかったら、傑はホセ・カレラスのはずだった！ (2) 神に与えられた才能とほんの少しの努力。これが本当の歌う喜び！ (3) 日本中のテノールよ、嫉妬しろ！ 井上道義（指揮者、テノール発掘人）」というお言葉が掲載されています。

この CD をお聴きくださいました世界最高の指揮者のロリン・マゼール先生は、色紙に、「To Dr. Yonezawa, Possesor of a lovely voice and “feel” for opera. Good luck」というお言葉をお書きくださり、サインをしてくださいました。

高名な音楽評論家の故・黒田恭一先生は、「家庭画報（第 47 巻第 10 号、2004 年 10 月 1 日発行）」の記事で、「今、黒田さんが最も注目するオペラ人」ということで 2 名をお挙げになり、1 名は「サイモン・ラトル+ベルリン・フィル」、そして、もう 1 名が「米澤 傑」でした。その記事では、「マリオ・デル・モナコの声を持つ医学部教授に会う」という題で、黒田先生と私との対談が掲載されています。

私の CD「誰も寝てはならぬ/米澤 傑 テノール・オペラアリア集（G. スターファノ指揮・ソフィア国立歌劇場管弦楽団）」のジャケットのライナーノーツに、黒田先生が「聴け！これがテノールだ！」と題した解説文をくださり、CD の帯に「天から授かった珠玉の喉を磨きに磨いて、その声を本物のテノールのものにした米澤傑。一級のテノールをきいたときだけに味わえる至福の瞬間！（音楽評論家 黒田恭一）」とお書きくださっていますが、この CD はヨーロッパでフルオーケストラを借りきって収録を行いました。

日本のテノール歌手では、プロ歌手も含め、フルオーケストラでのオペラアリア集の CD を発行していますのは、私のみです。フルオーケストラを借りきるというのは大変な費用がかかるというのが、その理由ですが、幸い、この CD は度々ヒットチャートの第 1 位を獲得するほど良く売れましたので、オーケストラへの支払いをはじめ、CD 製作に掛かった費用は全ての支払いを無事に済ませることが出来ました。

このホームページでも、その CD 録音の一部を YouTube（以下の URL）でお聴き頂けます。

=====

CD「誰も寝てはなぬ / 米澤 傑 テノール・オペラアリア集」
(SUGURU YONEZAWA SINGS TENOR OPERA ARIAS)

の YouTube は、以下の URL をクリックすると聴くことができます。

www.youtube.com/watch?v=N_KVp3g-1uo

あるいは

[Sing TENOR OPERA ARIAS - YouTube](#)

=====

お気に入られました場合には、「楽天市場 米澤傑」で検索頂けますと詳細がご覧いただけ、ご購入いただくことも可能です。

様々な音楽雑誌やテレビ・ラジオの番組で、私の「医学」と「声楽」の両方での活動が紹介されて来ました。音楽雑誌のみでなく、「週刊新潮（第 50 巻第 37 号、平成 17 年 9 月 29 日発行）」の「TEMPO アーツ」というコーナーにも『プロよりうまい「テノール」2 人の本業』という記事が掲載され、鹿児島大学医学部教授の私と、設計士の竹田昌弘さんが紹介されました。

そのような記事をお読みになったり、テレビ・ラジオの番組をご視聴くださいました方々から、“「医学」と「声楽」の両方で活動なさり、器用ですね”と、よく言われますが、私自身は、まさに“不器用”なのです。「医学」と「声楽」以外は何もしません・・・いや、出来ません！夜の街に呑み行くというようなこともいっさいしません。「医学」と「声楽」以外のことは何もしないし、しないからこそ、「医学・医療」というとても忙しい仕事を抱えていても、「声楽」の活動をする時間が編み出せると理解しています。

米澤 傑